

第61回岡山県総合バスケットボール選手権大会 兼第42回中国総合バスケットボール選手権大会岡山県予選会																	
日時	2015年10月4日		男子	決勝													
会場名	笠岡市民体育センター			(A)コート													
● ナカシマ (実連) 58 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin: 0 10px;"> <tr><td rowspan="4" style="font-size: 4em;">}</td><td>18</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>20</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>20</td></tr> </table> 73 ファイサズ岡山 ○ (クラブ①)					}	18	—	17	14	—	16	11	—	20	15	—	20
}	18	—	17														
	14	—	16														
	11	—	20														
	15	—	20														
審判名	主 審	三村 力丸	副 審	前花 直哉, 奈須 遼渡													

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
中島 直幸	1	-					岡崎 務	0	-				
横山 龍	2	3		1	1	1	佐藤 朋信	1	11	3	1		1
佐宮 光徳	3	-					大橋 雄太	2	-				
山口 時生	6	-					岸本 祥也	5	-				
佐宮 大吾	7	9	3			1	中西 祥一郎	6	4		2		3
ソウシエルノファイ	9	7		3	1	3	粟井 洋充	8	-				
奥山 拓志	11	-					田上 靖浩	9	2		1		1
山野 俊介	14	20	2	7		2	三村 健夫	10	-				
杉本 智広	15	0				2	辻本 雅敏	11	14		6	2	2
岡田 陸人	18	8	2	1		2	木村 晋輔	13	15	1	6		
小橋 一正	21	0					谷口 巨将	14	11		3	5	
伊藤 実希(C)	31	0					石原 健一郎	18	4		2		4
藤高 竜一	45	4		2		3	中垣 俊平	24	-				
竹林 克也	51	7	1	2		2	大嶋 将之	26	-				
赤木 雅道	91	-					芳上 卓	31	0				
							中島 聡	39	12	1	4	1	1
合 計		58	8	16	2	16	合 計		73	5	25	8	12

戦 評

1Q 両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。ファイサズが#14のジャンプシュートで先制し、対するナカシマも#14のシュートで互角の立ち上がりを見せる。ナカシマは#9を起点にプレーを組み立てようとするがなかなか得点できず、一方ファイサズは速いパス回しで攻撃を展開し、#6がスティールから得点、#1が3Pを決めるなど優勢に試合を進める。残り5分となったところでナカシマも#9、#14らのシュートが決まり始め反撃開始、残り3分で同点とする。その後お互いに得点し、終了間際にナカシマ#18の3Pが決まり、ナカシマ18-17ファイサズで1Q終了。

2Q ナカシマ#14のジャンプシュートで試合再開。ファイサズも攻守切り替えを早くし、セットオフェンスから確実に#11、#18らがシュートを決めてリードを奪おうとするが、ナカシマも#14の3Pや#2のドライブからの得点で応戦する。残り5分からお互いにシュートが決まらず、ターンオーバーも多くなり膠着状態に。残り3分、ナカシマは#51の3Pが決まり、#45のレイアップでリードを広げようとするも、残り1分からファイサズが反撃。#14が得たフリースローを確実に2本決め、その後も#13の速攻からのレイアップ、#39がリバウンドからのシュートを決め、逆転に成功。ナカシマ32-33ファイサズ前半を折り返す。

3Q 立ち上がりファイサズは#1の3Pでリードを広げる。ファイサズのゾーンディフェンスに対し、ナカシマは外角のシュートを狙い#14が3Pを決めるものの攻撃が単調になってしまう。一方ファイサズは速いボール運びから#14、#13らが得点を決め、残り7分、7点差となったところでナカシマのタイムアウト。その直後ファイサズ#1が3Pを決め、リードを広げようとするが、ナカシマも#7の2連続3Pで反撃し差を詰める。残り5分でファイサズがタイムアウトをとる。その後は両チームとも厳しいチェックでお互いに得点を許さなかったが、残り2分、ファイサズが#13の2連続得点、#39がバスケットカウントを決めるなど、リードを広げ、ナカシマ43-53ファイサズで3Q終了。

4Q ナカシマはゾーンディフェンスでペースを変えようとするが、ファイサズがドライブやスペースをうまく使ったオフェンスで得点を重ねていく。#39のドライブからのシュートが決まった残り5分でナカシマがタイムアウト。その後ナカシマは#18の3Pが決まり、追い上げようとするが、ファイサズはその直後#39の3Pで勢いを断ち切る。ナカシマも#9のインサイドや#7の3Pで得点を重ね、得点差を縮めようとするが、ファイサズは終盤#11が攻守にわたってリバウンドを頑張り、さらにリードを広げた。後半の勝負所で主導権を握り、そのリードを落ち着いてキープしたファイサズが決勝戦を制し、5年ぶり14回目の優勝を飾った。